

上坂原子力委員会委員長の海外出張報告

令和6年8月20日

内閣府原子力政策担当室

1. 出張先

オーストリア共和国（ウィーン）

2. 出張期間

令和6年3月5日（火）～9日（土）

3. 渡航目的

IAEAは、マリー・キュリー奨学金プログラム（MSCFP）およびリーゼ・マイトナー・プログラム（LMP）を通じて、より多くの女性が原子力分野に参入し、キャリアを追求できるよう、将来の原子力人材育成に取り組んでいる。

3月8日の国際女性デーを記念して、本年、IAEAは「原子力分野で活躍する女性を増やすために（For More Women In Nuclear）：MSCFPとLMP」と題したイベントを開催。ハイレベルによるパネル討論はじめ、MSCFP、LMPの実績紹介、また、これまでの修了生が一堂に会し、産業界などとのネットワーキングや意見交換等のイベントが行われた。

原子力委員会 上坂委員長が、前記のパネル討論への参加者として招待を受けたため、これに登壇するためIAEAに出張した。これに合わせ、一連のバイ会談等を実施した。

4. 主要日程

3月5日 東京出発

6日 IAEA幹部とのバイ会談（IAEA計画・情報・知識管理部ファン部長及びポラス課長、原子力科学・応用局担当モクタール事務次長及び同物理・化学部デネケ部長）

7日 For More Women In Nuclear（Day1）出席：開会パネル討論登壇

8日 For More Women In Nuclear（Day2）出席

ウィーン代表部 海部大使他と会談

ウィーン出発

9日 東京着

5. For More Women In Nuclear 参加概要

【第1日】

14:00 -15:30 プレナリーセッション 「障壁を打ち破り、リーダーを育てる」
IAEAラファエル・マリアーノ・グロッシ事務局長より以下のような開会挨拶
があり、集まった400名を超える修了生に呼びかけた：

IAEAに対して、事務局長として2025年にジェンダー・パリティ到達という目標を掲
げ、実現性を疑問視されながら、既に女性比率は46%に到達した。

2020年3月に、マリー・キュリー奨学金は、COVID-19パンデミックとともに始まり、
これまでの受給生は600名ほどになる。積み重ねが重要であり修了生ネットワー
クを拡大し、ジェンダー・バランス向上につなげていく歩みを続けていく。今後、所
属する多くの組織の中で中心となって活躍してもらうよう期待する。

リーゼ・マイトナー・プログラムで原子力の専門家として成長した人は、中核とな
って協力を助け、プログラムのアンバサダーとして支援の継続をお願いしたい。
この修了生ネットワークは産業界のためのプロフェッショナルのネットワークで
もあり、原子力産業界が成長しようとするこの時期にできたのは最高のタイミン
グである。世界は、気候変動問題から、原子力の加速が必須と言い始めた。今、230
万人が原子力の世界で働いているが、もっと必要だ。

世界は原子力を必要としており、原子力はあなたを必要としている。



開会時のフォトセッションで多くの修了生に囲まれるグロッシ事務局長
(グロッシ事務局長Xポスト*より)

* <https://x.com/rafaelmgrossi/status/1765776396083720605/photo/1>

開会挨拶に続き、以下のパネリストによるハイレベルのパネル討論が行われ
た。

(着席順)

- アレシア・ダンカン 米国エネルギー省(DOE) 原子力国際政策・協力担
当副次官補
- 上坂 充 日本 原子力委員会委員長

- サマ・ビルバオ・イ・レオン 世界原子力協会（WNA）事務局長
- ラファエル・マリアーノ・グロッシー IAEA事務局長
- フランシスコ・ロンジネリ ブラジル原子力委員会委員長
- ミン・ビョンジュ 韓国産業技術振興院（KIAT）院長
- ソヘア・コラー WiNアフリカ議長 エジプト国立放射線研究技術センター 放射線分子生物学教授

モデレータがパネリストごとにリーダーシップ、バイアス、経験、産業界などのキーワードを含む質問を投げかけ、一問一答で答える方式で進行し、グロッシー事務局長がまとめた。全体としては、自身の経験を交えながら、会場に参加した修了生たちに今後への継続と、発信を呼びかける内容の発言が多くみられた。上坂委員長からは、東京大学教授時代の経験と、今後5年間のビジョンに関する2問に回答。

東大教授時代の経験として、実験物理中心の研究テーマに医学物理を加えたことで女子学生比率が急速に向上した事例を紹介。自身の専門性に女性が入りやすい分野を加えることで自身の知識と活動分野を拡大する努力をしたことと、更に相乗効果で元々の専門分野にも良い影響が出て全体が膨らんでいくことを実感。1 + 1は4にも5にもなるとのコメントは大きくアピールした。

5年のビジョンに対しては、「原子力利用の基本的考え方」への反映も含め、核セキュリティや人材育成のように、既に多くの女性が活躍している分野や核医学をはじめとする非発電利用など、女性が活躍しやすい分野から女性を増やしていくことに取り組みたいとコメントした。



ハイレベル・パネル討論の様子

最後に締めくくりとして、グロッシー事務局長から、集まった修了生への以下のようなコメントがあり終了した。

この課題には即効性の解決策はない。修了生にはメンターやアンバサダーの役割を引き受けてもらいたい。女性ならではの視点というものは確かにあるので、これが取り入れられる環境が重要。ジェンダー平等への取り組みはシステムティックに進めることが重要で、数値を積極的に使うべき。ここに集った修了生は才能ある人材プールで既にファミリーの一員である。次のステップに向け、一緒にファミリーを拡げていこう。

15:30以降は、修了生向けの情報提供セッションに充てられた。「世界情勢における原子力の役割」として、低炭素発電から、がん治療、食品安全、材料試験への対応まで、原子力科学技術がもたらす恩恵について、IAEA各事務次長らが自身の担当分野について紹介。また、「原子力で働く女性のためのキャリア開発」と題した専門能力開発に関する講演等につき、グループに分かれて、IAEA上級職員や原子力産業界から集まったシニアな専門家らから、さまざまなアドバイスやガイダンスを受けた。

【第2日】「国際女性デー」

第1日後半に続き、修了生向けの情報提供セッションが行われた。

- ・ 両プログラムの主要なドナーおよびパートナーが紹介された。各国政府代表者（カナダ、中国、フランス、日本：ウィーン代表部今西公使、スペイン、米国、韓国、EU）から協力の目的、重要性、期待、成果等を述べられた。企業や研究機関の紹介もあった。
- ・ 原子力分野を含め、多くの女性リーダーから、キャリア経歴やキャリア構築に関する経験談が紹介された。

【所感】

400名を超える修了生を集めたイベントは非常に盛大であった。受講生を一定期間缶詰にするリーゼ・マイトナー・プログラムの修了生らが再開を喜ぶ場面が数多くみられ、マリー・キュリー奨学金修了生同士も初めて顔を合わせられた。また、各修了生の縦のつながりが構築できたことも重要と考える。

登壇した講演者からもネットワーキング、関係構築の重要性が繰り返し述べられ、この両プログラムが、原子力で働く女性の強力なネットワーク構築に寄与することが期待される。

6. バイ会談

- 3月6日：IAEA計画・情報・知識管理部ファン部長及びポラス課長
原子力専門人材の育成に関する課題について意見を交換。席上、7月に開催される原子力知識継承・人材育成国際会議への登壇が打診され、後日、承諾し、登壇した。（後日、報告の予定）
- 3月7日：IAEA原子力科学・応用局担当モクタール事務次長及び同物理・化学部デネケ部長（両名とも女性）
医療用ラジオアイソトープ利用への取り組みにつき情報を交換すると共に、女性参画について意見を交換。9月のIAEA総会の際のサイドイベント開催の可能性等について協議した。
- 3月8日：ウィーン代表部 海部大使
For More Women In Nuclearへの登壇に対し、海部大使より謝意が表され、上坂委員長より参加について概要を報告。女性参画について意見を交換した。

以上